

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	71	学校名	仙台市立鶴巻小学校	校長名	前川 武則
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

全員で取り組む日常におけるエコ活動



2 取組の紹介

(1) 紙や雑巾のリサイクル

職員室や印刷室では、紙の分別用ボックスを設置し、リサイクルしやすいよう工夫をしています。裏紙を大きさごとに分類し再利用して、無駄をなくしています。

各教室で使い終わった雑巾を「お疲れ様雑巾」ボックスに入れて、トイレ掃除に使ったり習字の墨を拭くため利用したり最後まで使い切っています。



☆裏紙の再利用



☆雑巾の再利用

(2) ごみの分別

各教室や職員室では、プラごみと燃えるごみを分けています。前述のリサイクルボックスと合わせて、3つの箱を用意することで、分別への意識を日常的に高めています。

ごみ置き場は、児童に分かりやすいように分別の表示の仕方を工夫しています。



☆教室での分別



☆ゴミのまとめ方にも一工夫

(3) 校内の美化活動の推進

① 緑化活動の推進

全校児童で校地内の除草作業を2回行いました。コロナウイルスの感染対策を踏まえ十分な間隔を取りながら実施しました。抜いた雑草も堆肥として溜めています。

除草作業を通して、自分たちが過ごす学校をきれいに使おうと思う気持ちを育てています。

② 児童会祭りでのエコ意識

児童会祭りの時には、できるだけごみを出さない店づくりを計画委員や環境委員を中心に放送やポスターで呼び掛けました。片付けの時にはダンボールや紙ごみ等の片付けの仕方を全校で統一して片付けることで、スムーズに分別ができました。

3 取組の成果（児童の変容）

各学級に紙用のリサイクルボックスを設置することにより、児童自身が自然と分別して捨てるようになってきています。紙のリサイクルに対する意識が根付いてきていると思います。また、ごみの分別の表示を設けたり、学校行事の際などに、環境委員の児童を中心にごみを分別するよう呼び掛けたりしたことで、児童に日常的にごみの分別を行う姿勢が身に付いてきています。

今後も児童が、学校、家庭、地域で進んでエコ活動に取り組み、家庭や地域の皆さんとともに活動できる環境づくりを進めていきたいと思っています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	72	学校名	仙台市立東宮城野小学校	校長名	川村 美智
------	----	-----	-------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

地球に優しく, 地域に優しく, 東宮っ子!



2 取組の紹介

① 全校による活動

花壇の整備・校舎外清掃

毎年行っている学校花壇の整備を4・5・6年生中心に行いました。4・5・6年生が花壇に名前を付け名札を作る活動を行い, 春植えのサルビアやマリーゴールド, 秋植えのパンジーやチューリップの球根などを児童の手で植えました。



児童は花壇への愛着

を感じながら, その後も雑草の処理や秋植えの花への植え替えなど進んで活動する姿が見られました。常時, 活動として給食・緑化委員会が朝の水やりの活動や啓発活動としてポスターの制作も行いました。

11月に例年行っている校地や周辺の枯れ葉やごみを片付ける校舎外清掃活動を行いました。校地は落葉樹も多く, 多くの落ち葉が落ちています。校地内・外をきれいに清掃する活動をとおして, 環境に目を向け進んで整備する気持ちを持たせる活動に取り組みました。



② 各学年等の活動

5年生 東宮城野小学校周辺の身近な環境を探ろう

5年生の総合的な学習の時間で「自分たちの住む身近な環境を五感で感じ, 自然や環境に対する理解を深めること」をねらいとし, 地域にある応用地質株式会社から講師をお招きし, 学習に取り組みました。内容は地域の公園や緑地帯・神社の境内を会場とし, 耳を澄ませ鳥の鳴き声や近くの音を聞く, 目をつむり樹木に触るなど五感で自然を感じる活動を行いました。講師の方から「心地良さの感じ方は人によって違う」と教えていただき, 最後には班ごとにまとめ, 「神社は静かで落ちつく」等, 発表を行いました。環境について五感を使い自然を感じる良い機会となりました。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

(1) 児童は, 自分たちが使っている校地を清掃することで, 普段から身の回りをきれいにしようという気持ちが育ち, 校内の環境整備に関心を持たせることができました。

(2) 地域の会社と連携を図り, 改めて地域の自然にも良い面があることに気付くことができ, そのことにより, 地域にある自然を深く知りたいと考える児童が多く見られました。また, 児童は講師の方から地域の植物や環境の情報を詳しく教えていただいたことで地域の自然への関心も高まりました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	73	学校名	仙台市立沖野東小学校	校長名	大友 英之
------	----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

環境を守るために自分たちにできることを考えよう



2 取組の紹介

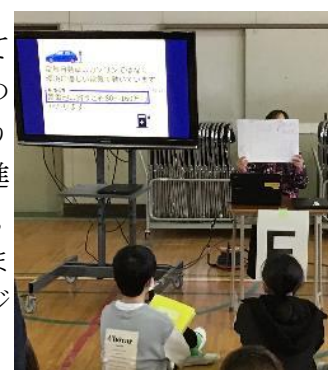
○ 5年生の取組（総合的な学習の時間）

・「みやぎ環境出前講座」

地球温暖化の原因、それによってもたらされる影響や、SDGs とは何か、県内で行われている取組について話を聞き、環境問題について関心を持ちました。温暖化防止のために、自分たちにもできる取組があることを教えていただきました。

・「理想の家作り～SDGs の観点から～」

はじめに、出前講座での話を振り返り、どのようなことを意識して生活していけば良いか考えました。次に、SDGs について調べ、環境に良い家を作るための工夫について考えました。壁・屋根・窓などの家の素材や、電気やガスはどうか、庭に置くものはどのような物が良いか調べながら、理想の家作りを進めていきました。全体図、間取り図、家の中の様子（工夫）、家の外の様子（庭）、そして自分がどう行動していくかをそれぞれ画用紙にまとめ、学級で発表しました。発表を踏まえ、友達の良いところも参考にしながら、自分の家をバージョンアップさせ、こだわりポイントをロイロノートでまとめました。最後に、学習発表会にて、保護者の方々の前で発表を行いました。



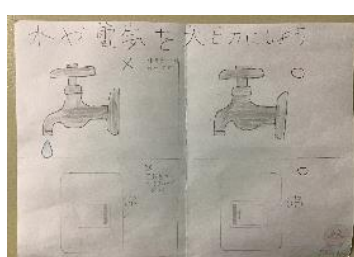
〈5年生 総合 発表会〉

○ 環境委員会の取組

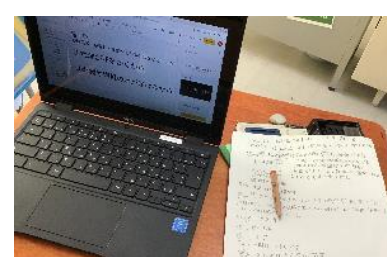
環境委員会では、プランターへの花植え、水やりなどの校内緑化活動に取り組みました。校内美化活動の一環として、各学級の掃除ロッカーの点検も実施しました。さらに、普段から資源を大切にするため、ポスターやクイズを作成し、全校への啓発活動を行っています。「節水・節電を心掛けよう」「生き物や植物を大切にしよう」「ごみを分別しよう」といった内容を継続して呼び掛けています。また、食糧問題や大気汚染、水質汚濁の問題など、SDGs に関するクイズを作成し、全校へ放送することで、環境問題に関心を持ってもらえるよう活動しています。



〈プランター花植え〉



〈節水・節電ポスター〉



〈環境クイズ〉

3 取組の成果（児童生徒の変容）

5年生は、出前講座を通して、地球温暖化の問題に関心を持つことができました。SDGs についても理解し、環境に良い理想の家を考える中で、環境保全のために自分には何ができるのかを考えることができました。さらに、以前より家の電気をこまめに消すようになったと、実際に行動に移すことができた児童もいました。

委員会活動では、花を植えや水やりを責任を持って行うことで、花を大切にしようという意識が高まったり、美しい花を見て幸せな気持ちになったり、身近な環境に関わることのすばらしさを感じることができました。また、ポスターやクイズの作成とおして、資源の無駄遣い防止や、環境保全を全校へ呼び掛けることで、使う分だけ水を出したり、ごみを分別して捨てたり、考えて行動する姿が多く見られるようになってきています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	74	学校名	仙台市立郡山小学校	校長名	小崎 功二
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

郡山地域の自然を生かした環境・エコ活動



2 取組の紹介

○ 給食時の残食調査とエコ活動

給食委員会の活動として、給食週間において、「食料を大切にし、無駄にしない」という啓発活動を行いました。単独調理校ということで、食材も、野菜など、地元郡山の農家から仕入れて、それらを紹介することで、感謝の心を育む取組も行っています。

○ 学年で取り組んだ活動

1年生・2年生

1年生は朝顔、2年生はミニトマトを栽培したり、季節ごとに自然と触れ合ったりして、環境について関心を持たせ、自然を大切にし、その恵みに感謝ようとする気持ちが養われました。

3年生

学年園で大豆を栽培しました。例年だと収穫した大豆を豆腐に加工していましたが、感染症予防のため、今年度は豆腐作りの様子を見学する活動を行いました。栽培活動を行うことで、食の安全や地産地消を考える良い機会となりました。

4年生

地域の地形を調べ、防災マップを作成しながら、一方で、作物を育てるには、地域の環境が関係していること、水資源を守ることの大切さについて考えることができました。

5年生

地域の農家の方から水田をお借りし、4月からもち米作りに取り組んでいます。農家の方に無農薬での栽培の手ほどきを受けながら、定期的に草取りや手入れを継続して行い、たくさんのもち米を収穫することができました。



6年生

地域の農家からお借りした畑で有機野菜作りに取り組みました。無農薬の野菜作りは手間がかかることを実感していました。また、作物を栽培することは、自然環境が大きく影響することにも気付きました。収穫した野菜を販売し、保護者の方々との交流の一助としました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

- 給食の配膳時に、残菜が出ないように量を調節して配食したり、食材の中の野菜が地元農家の方が作ったものであることを意識して喫食したりする様子が見られました。
- 当校は自然と触れ合う機会が多く、環境を大切に守ろうとする意識付けを図るために、学年の実態に合わせて多くの体験活動を取り入れています。高学年で食や環境課題について調べ活動をした際には、今までの体験活動をとおして学んだ経験から、更に自分の興味を持った環境課題について調べるなど、どの児童も課題解決に向けて、より深く考える意欲が高まっています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	75	学校名	仙台市立茂庭台小学校	校長名	高橋 研
------	----	-----	------------	-----	------

1 テーマ「食品ロスを少なくしよう」



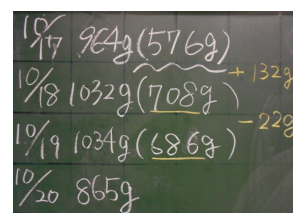
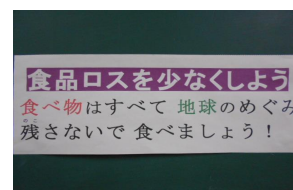
2 取組の紹介

(1) はじめに

本校では、給食の食べ残しの量が多いことから、前年度より上記のテーマを設定し、学校全体で残食を少なくするための取組を推し進めてきました。前年度の取組により、食べ残しを減らすことへの意識や、社会的な問題である「食品ロス」に対する関心が以前よりも高まったと思われます。今年度も学校全体で給食の残食を少なくすること、更に家庭や個人でできることについて児童に考えさせ、行動させることで、食品ロスの問題に対する意識をより高めていくというねらいの下、同テーマで活動に取り組みました。

(2) 取組の具体例

- 各教室に「食品ロスを少なくしよう」の標語を掲示しました。
- 農林水産省や消費者庁のウェブサイトで「国民一人あたりに換算すると、茶碗1杯分の食べ物が毎日捨てられている」という状況について学習しました。
- 第2学年では、10月中旬に2週間にわたり、給食（副菜）の食べ残しを一人ずつ牛乳パックに入れ、それを集めて重さを量り、黒板に記録していきました。
- 例年「給食週間」で取り組んでいる「給食に関する標語」の募集において、『食品ロス』に関するもの等のカテゴリを新たに設けました。
- 仙台市の「フードドライブ」の取組を各家庭に伝えるために環境局家庭ごみ減量課の承諾を得てリーフレットを増刷りし、配付しました。



副菜の残食量 (第2学年)

3 取組の成果（児童の変容）と課題

- 第1学年の教室では「食品ロスを少なくしよう」が掲示されると「ああ、SDGsだね!」という児童からの反応がありました。身近にできることがあることに気づき、「残さず食べよう」という意欲が高まったようでした。
- 第2学年では、給食（副菜）の食べ残しの重さを量り意識付けしたことで、「前の日よりも残食を少なくしよう」と学級全体で頑張る様子が見られました。また、担任が「世界中の10人に1人は食べ物が足りなくて困っている。食べ物がいつもあるのは当たり前ではない。用意されたものはしっかり食べよう!」と話したところ、白飯の食べ残しが少なくなりました。
- 第3学年では「政府広報オンライン」で食品ロスに関する情報を児童に伝え、できるだけ残さずに食べるよう声掛けしたところ、残食が少なくなりました。
- 上学年では、「食品ロス」に関する標語を意欲的に考えて応募する様子が見られました。
 - 〈作品例〉「給食を 笑顔で食べよう 残さずに」(6年生)
 - 「君たちが 残したその分 はいき処分」(5年生)
 - 「食べること 幸せなのさ 残さずに」(4年生)
- 献立によって残食の量が増える日があり、特に和食メニューの食べ残しが目立ちました。和食の良さや栄養を考えた食事の大切さについて食育をとおして伝えていくことが、給食の食べ残しを減らすことにつながると考えます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	76	学校名	仙台市立田子小学校	校長名	佐々木 宏
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

自然に親しみ, 命を大切にする心を育てる緑化活動



2 取組の紹介

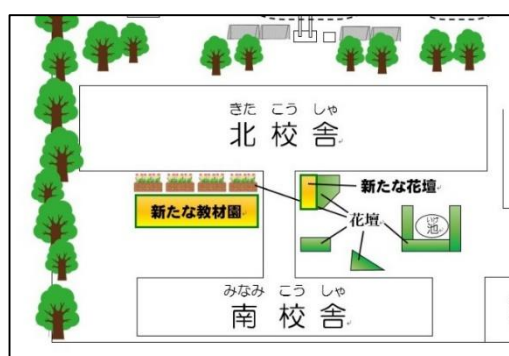
緑化教育担当を中心に, 校内の資源を活用しながら緑化活動を実施しました。

(1) 全校児童で取り組む緑化活動

中庭にある学年園や昇降口近くの花壇では, 春先に緑化委員会が中心となって花壇の整備を行い, 年間をとおしてきれいな花が登校してくる子供たちや, 来校される方を迎えらるるようになっています。

校地内には各学年担当の花壇もあり, それぞれ計画的に除草や水やりを行って, 自然あふれる美しい学校になるように活動しています。緑化委員会でも, 常時の活動として除草や水やりを行い, 花壇の整備に努めています。

本校では, 全校児童で取り組む「みどりの活動」期間を設け, 各学年が決められた場所にビオラを植える活動を行っています。今年度は, 10月17日からの1週間で「みどりの活動週間」と定めて実施しました。



整備した教材園と花壇の場所

(2) 校地内の緑化推進と教科学習に活用できる植物の栽培

校内の自然環境を充実させ, 様々な植物を理科や生活科, 生活単元の学習に活用できるように, 植物の栽培をしました。北校舎の南側にはヘチマ等を植えたグリーンカーテンも設置しました。中庭にある広い教材園と花壇には, 様々な植物を植え, 生長の様子を観察したり, 理科の実験に活用したりしました。

(左図参照)

3 取組の成果

校地内の緑化・栽培活動や植物を大切に育てて観察・活用する活動をとおして, 自然を身近に感じるとともに自然や命を大切にする意識が育っていることを実感しています。次年度も, 校内環境の整備・活用を進め, 自然に親しむ環境づくりと, 命を大切にする心を育てる活動に取り組んでいきたいと思っています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	78	学校名	仙台市立幸町南小学校	校長名	伊藤 公一
------	----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ エコでアート



2 取組の紹介

1年生では、図画工作科の時間に自然素材を活用してクリスマスツリーを作成しました。



①学校の広場には、たくさんの木々が生い茂っています。



②そこから、たくさんの松ぼっくりを拾ってきます。



③ペットボトルのキャップと紙粘土, ボンドを準備します。



④ペットボトルのキャップに紙粘土を詰めます。



⑤木工用ボンドで固定し, 土台にします。



⑥装飾用に, ビーズと絵の具を準備します。



⑦一つ一つ丁寧に塗っていきます。



⑧小さなビーズを付ける作業は難しかったです。



⑨きれいなクリスマスツリーが完成しました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

児童たちは、作業を進めるほどに熱中しながら、作品を一つ作り上げました。手順を覚えると一人で進んで作れるようになり、中には一人で20個も作った児童もいました。授業後の休み時間には、松ぼっくりやどんぐり等を拾う姿が多く見られるようになり、学校の広場が多くの自然素材の宝庫であることを理解できるようになりました。

今後は、今回の活動経験を経て得られた意欲や技術が図画工作科だけでなく、生活科等、他の学習にも生かされることが、期待されます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	79	学校名	仙台市立広瀬小学校	校長名	齋藤 敦子
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

「総合的な学習の時間を生かしたSDGsの取組」



2 取組の紹介

本校では、3年生が「大豆の栽培・加工の体験活動を通して、大豆に対する知識を高めるとともに、栽培や調理に関わる人々の苦労や願いを知り、大豆への愛着を深め、望ましい食生活を実践する態度を養う。また、集めた情報を比較したり、関連付けたりしながら整理し、協働的に課題を解決する力を伸ばす。」との目標の下、SDGsの「飢餓をゼロに」や「つくる責任・つかう責任」、「陸の豊かさを守ろう」などにつながる学習に取り組みました。

(1) 育て方計画・種の観察

単元の始めには、大豆の育て方の計画を立てるだけでなく、理科の授業で「種の観察」や「様々な種との比較」等をし、学習への意欲を高めました。



(2) 栽培・観察

子供たち自身で考えながら栽培や観察を行いました。また、大豆に栄養を集めるように、雑草抜きなどをしました。



(3) 大豆の加工品調査

夏休みに、大豆の加工品や大豆を使った料理について調べることを課題としました。御家庭から協力をいただき、様々なアイデアを知ることができました。

(4) ゲストティーチャーによる特別授業

宮城県味噌醤油工業協同組合より醤油博士を、合資会社亀兵商店より味噌博士をゲストティーチャーとしてお迎えし、大豆の加工過程や種類などの特別授業を行いました。専門の方から直接話を聞いたり、実物を味見したりすることで、大豆や食に対する興味・関心が高まり、残食を減らそうとする意識付けにもなりました。



(5) Chromebookによる調査

インターネットで大豆について調べ学習をしました。子供たち自身で課題や疑問を見だし、必要な情報は何かを考えながら、主体的に学習に取り組んでいました。また、自然との関わり方についても考えを深めることができました。



(6) 新聞作り

まとめとして「大豆新聞」を作成しました。種類や加工方法、歴史など学習したことについて、比較・関連付けをしながら整理し、まとめることができました。



3 取組の成果（児童生徒の変容）

自分たちで考えたり、話し合ったりしながら研究課題を決定したため、多くの児童が大豆や食、自然との関わり方などについて主体的に学習に取り組むことができました。また、醤油博士や味噌博士などから、分からないことを実際に聞くことができたことで、大豆に関わる人々の苦労や思いを知ることができました。さらに、単元の最後に新聞によるまとめ活動をしたことで、単元全体を振り返ることができ、改めて食や自然への関心を深めることができました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	80	学校名	仙台市立上愛子小学校	校長名	菅野 拓生
------	----	-----	------------	-----	-------



1 取組のタイトル, テーマ

－ 3校統合3年目新上愛子小学校の自然豊かな地域と連携した環境教育活動の取組－

2 取組の紹介

(1) 緑の活動

○ 学校花壇活動

6月に夏秋用花としてバーベナ、マリーゴールド、サルビアの苗を全校児童で花壇やプランターに植え付けました。

11月には、それまで育てた花を抜き取り、冬春用花として葉ボタンとパンジーの苗、チューリップの球根を植え付けました。

1年間をとおして、児童はきれいな花の下で活動することができています。



○ 学童農園活動と上愛子ライスフィールド

学校に隣接している学童農園を利用して、サツマイモの苗植え、除草などの整備、収穫をしています。5月に縦割り班ごとに苗植えをして、10月に収穫をしました。

上愛子ライスフィールドでは、全校児童で田植えを行い、上学年が稲刈りや脱穀を行いました。収穫した新米は、収穫を祝う会と給食でおにぎりにしておいしくいただきました。



(2) 省エネルギーの取り組み (紙類・段ボール類・プラスチック類等の分別)

教室や職員室等に分別ゴミ箱を置き、普段からゴミの分別を行うことにより、3Rへの意識付けを図るとともに、ゴミ減量について実践しました。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

上愛子小・作並小・大倉小の3校が統合した新上愛子小学校の地域を取り巻く恵まれた自然環境をとおして、自然や環境、エコ活動に更に関心を持ちながら生活することができています。